

**長崎県公立大学法人の平成24事業年度
に係る業務の実績に関する評価結果**

平成25年8月

長崎県公立大学法人評価委員会

目 次

長崎県公立大学法人の平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 . 全体評価		1
2 . 項目別評価		
(1) 大学の教育研究等の質の向上		2
(2) 業務運営の改善及び効率化		5
(3) 財務内容の改善		6
(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供		”
(5) その他業務運営		7

項目別評価の結果

区 分	項目数						以上(%)
大学の教育研究等の質の向上	72	0 (0)	7 (6)	61 (62)	4 (4)		90.3
業務運営の改善及び効率化	10	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)		100.0
財務内容の改善	2	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)		100.0
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	4	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)		100.0
その他業務運営	3	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)		100.0
合 計	91	0(0)	7(6)	79(80)	5 (5)		92.3

注) ()内の数字は、法人の自己点検・自己評価の結果

- ... 「年度計画を上回って実施している」
- ... 「年度計画を順調に実施している」
- ... 「年度計画を十分に実施できていない」
- ... 「年度計画を実施していない」

長崎県公立大学法人の平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

長崎県公立大学法人評価委員会は、「長崎県公立大学法人の評価の基本方針」及び「長崎県公立大学法人の各事業年度終了時の評価に係る実施要領」に基づき、長崎県公立大学法人の平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価を行った。

1 全体評価

第2期中期計画期間の2年目であった平成24年度では、第2期計画期間の初年度（平成23年度）の実績に対する評価委員会の意見等も踏まえながら、新たな国際交流協定の締結、受託研究・共同研究数の堅調な増加など、中期計画の達成に向けて着実に前進しているものと認められる。

平成24年度においては、学生による授業評価制度および教員の評価制度について見直しを実施されており、これらの適切な運用と改善を図りながら、授業改善や教員の研鑽を促進するものとして機能させていくことが期待される。

地域への貢献に係る取組の状況は、前年度に引き続き、協定を結んだ自治体等と連携して多彩な事業を行っているほか、各種委員会の委員等へ教員が多数就任するなど良好であるといえる。さらに、大学が各地域に出向いて行う地域公開講座について、その開催数と受講者数が大きく伸びており評価できる。

また、タイ、中国に所在する大学とそれぞれ国際交流協定を結んだほか、国際交流学科における短期語学研修の必修化に向けた準備や、留学生の受入態勢の強化など、大学の国際化、海外に目を向けた取組に進捗が見られることが特に注目される。

一方、語学運用能力の養成に係る実績については、第1期中期計画期間から目標とする水準を大きく下回った状態が続いており、計画からの遅れが生じている。国際交流学科の語学研修、経済学部グローバル人材育成プログラムにおける短期海外ビジネス研修など、中期計画で導入を予定する取組を円滑に実施し、またその効果をより高いものとするために、土台となる語学運用能力の向上は必要不可欠なものといえる。平成25年度からは語学教育の抜本的な改革が行われており、今後確実に結実していくことが望まれる。

また、大学院の定員については、平成24年度においても引き続き未充足となっている。教育課程や定員数を含め、社会のニーズに合致した大学院のあり方の検討を改めて行っていくことが重要である。

最後に、本評価の基となる法人の実績報告書について、資料等を活用して具体的説明が図られているものの、それぞれの年度計画に対応する実績の記載が不十分な箇所が依然として見られる。本指摘は毎年度なされているものであり、適切な評価を行う上で、確実な改善に努めていくことを求める。

評価委員会の全体評価としては、多くの事項について年度計画を達成しており、着実な成果を挙げていると認められるが、一点、教育に係る項目において特筆すべき取組実績が上っていないことは残念である。引き続き、未達成となっている事項を確実に実施・改善していくとともに、教育分野、人材育成において高い実力を有した大学を目指し、学長のリーダーシップのもと組織的に取り組んでいくことを期待する。

2 項目別評価

(1) 大学の教育研究等の質の向上

教育に関する目標

研究に関する目標

地域貢献に関する目標

【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】

中期計画〔6〕の年度評価 評価委員会の評価「 」(法人の評価「 」)
栄養健康学科の新カリキュラムの策定について、見直しが行われている全学教育課程との調整を図るため、カリキュラム(案)の作成に止まっている。「策定する」としていた年度計画との対応を考えたならば、検討が行われていたとしても、本項目について評価「 ・計画を順調に実施している」とは認められない。

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

長崎県立大学の個性ある教育として、「長崎を学ぶ」科目群の具体的な検討が進み、25年度から4科目が開講されている。今後も引き続き、全学的な実施のために必要な検討を進めるとともに、長崎から世界を考える契機となる、魅力的な科目の充実を図っていくことを期待する。(2)

「しま」体験教育プログラムについて、共通テキストを作成するとともに、具体的に検討を進め平成25年度から試行的に実施することとしており、全学必修化に向けて着実に取り組んでいるものとして評価できる。(3)

経済学科と流通・経営学科の共同による「グローバル人材育成プログラム」の案が策定されており、短期海外ビジネス研修をはじめ、国際的に通用する人材の育成に向けた実践的な教育の取組として、今後の具体化と早期の導入を期待する。(4-1、4-3)

経済学部における資格取得について、外部委託の実施など資格取得を支援する取組を見直しており、販売士検定試験・FP 技能検定試験共に合格者数が伸び、計画の水準を上回っていることは評価できる。(4-4)

国際交流学科において、短期語学研修の必修化に向け試行的に海外へ学生の派遣を行うなど着実に取り組み、25年度から必修科目として導入している。今後は、導入した研修制度を常に検証し、必修の科目としてより高い効果を上げるものとなるよう、支援制度等と併せて改善を図っていくことを期待する。(7-1)

留学生の受け入れについて、中国語による大学案内の作成、協定校等への配布など広報に努めており、留学生受入数が中期計画の達成に向け順調に増加していることは評価できる。今後はさらに、カンパセーションルームの活用による日本人学生との交流促進など、大学の国際化に向けた取組がより拡充されることを期待する。(13)

授業評価制度について、評価項目の統一やホームページでの結果公表など、全学的な制度の整備、および実施がなされていることは評価できる。今後も項目の内容や評価結果の活用等について引き続き検討が行われ、学生にとってより有益な制度となるよう改善が図られていくことを期待する。(19)

学部就職率について、看護栄養学部が前年度をやや下回ったものの大学全体で計画以上の高い水準を維持している。現下の未だ厳しい社会情勢の中、情報をより迅速に掴み、一人ひとりに対し細やかに対応する就職支援を継続していくことを期待する。(24-1)

相互協力協定を結んでいる新上五島町、長与町、佐世保市に加え、長崎県や川棚町など広く県内自治体等と共同して、多彩な連携事業に取り組んでいることは高く評価できる。大学の研究成果等を積極的に地域に還元することは県立大学の使命の一つであり、引き続き、自治体等との意見交換を積極的に行いながら、地域と連携して諸課題の解決に向けた取組を推進していくことを期待する。(27-1、29-2)

教員の論文数や学会での発表回数は計画の水準を上回っている。今後さらに、研究の質の向上を目指す上で、著名な学術誌への掲載や引用数の増加などについても併せて、実績として示されていくことを期待する。(29-1)

国際交流の推進に向けて海外の大学へ教職員を派遣し、新たに2校と国際交流協定を締結したことは評価できる。引き続き協定校の増加を目指すとともに、締結した協定に基づき、教育、研究の両分野において交流事業が積極的に行われることを期待する。(33-1)

大学の研究成果や人的資源の活用として、地域連携センターが中心となり、民間企業や自治体等との共同研究、および受託研究を着実に実施している。(34)

地域公開講座については、前年度より開催数、受講者数ともに大きく増加しており、広報活動や受講者アンケートによる内容等の見直しの効果が表れたものとして評価できる。今後も引き続き、テーマや講座内容の検証に取り組むとともに、開講方法についても、地域住民のニーズに応えるための検討を行い、柔軟に対応を図っていくことを期待する。(36-1)

平成24年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

栄養健康学科の新カリキュラムについては、平成24年度に検討が行われカリキュラム(案)が作成されているが、策定を次年度に持ち越しており、年度計画の達成には至っていない。平成25年度中の国へのカリキュラム変更申請に向けて、課題となっている全学教育課程との調整を速やかに進めていくことが望まれる。(6-2)

看護師・保健師国家試験について、ともに合格率100%を達成している一方で、管理栄養士の国家試験合格率は90.7%と、国公立大学の平均(91.0%)を少なくとも上回る、とする計画を達成できていない。引き続き、資格取得に向けた各種支援の充実を図っていくことが望まれる。(6-3)

外国語運用能力について、「TOEIC 実践演習」の必修化(国際交流学科)、課外学習支援または検定試験対策講座等、個別の取組が行われ、国際交流学科においては全体的な点数の伸びが一定確認できるものの、関係する項目についてそれぞれ目標の水準を大きく下回っている。語学教育について抜本的な見直しを行う中で、科目の追加やカリキュラムの改善に留まらず、入試制度や進級要件の見直しなど、多角的に改善案を検討していくことを求める。(7)

学部・学科再編の再検討に伴い、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の検討が遅れている。(8)

大学院の定員は、平成24年度も引き続き未充足となっている。研究科のPR等のみでは継続的な学生の確保は難しいと考えられ、養成する人材、また定員等も含め、学生や社会のニーズに即した大学院のあり方について、所要の検討を行っていくことが望まれる。(10、11、12)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載72事項中65事項が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の各項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断される。

(2) 業務運営の改善及び効率化

組織運営の改善に関する目標

人事の適正化に関する目標

事務等の効率化・合理化に関する目標

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

より効率的な大学運営を図るため、中期計画の進捗を考慮した上で、平成23年度に策定された法人の経営戦略に基づいて予算の重点配分を行っている。(42)

教員の評価制度について、平成23年度に改正した基本方針に基づき、全学的な教員評価実施基準を新たに策定している。新たな基準では、学生による授業評価制度、及び学長による評価を反映することとされており、評価制度に複数の視点を加えたことは評価できる。今後、教員の研鑽を促進するものとして機能していくことを期待する。(45)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(3) 財務内容の改善

外部資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標

効率的な運営に関する目標

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

科学研究費等、外部資金の獲得については件数、金額ともに前年度から着実に増加しており、中期計画の達成ペースを大きく上回って進捗しているものとして評価できる。引き続き、公募に係る情報の提供をはじめとして、教員に対し外部資金の獲得を促す支援体制を拡充していくことを期待する。(51)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実に関する目標

情報公開や情報発信等の推進に関する目標

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

より見やすく、使いやすいものとなるよう、大学の公式ホームページのリニューアルが行われたほか、大学案内の見直し、平成23年度から継続した広報誌の発刊など大学の広報や情報発信に対し確実に取り組んでいると認められる。今後も、発信するコンテンツの充実や、より効率的な情報発信のあり方などについて、積極的な検討が続けられることを期待する。(56)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

(5) その他業務運営に関する目標

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

想定される災害等に対し防災マップを作成し、教職員に配布している。安全管理の徹底は大学の責務であるため、教職員への周知や、定期的なマップの見直しを行うなど、引き続き、適切な運用が図られていくことを期待する。(57)

個人情報等の重要なデータの保護に向けて、引き続きセキュリティ研修会を開催したほか、学内情報システムに情報セキュリティサイトを開設するなど、情報セキュリティ向上のための取組が行われている。(59)

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の項目等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。